

今生



宮澤ささくら句集

今生
遊び
あそぶ
あそぶ
あそぶ

深化した個性

風狂心と艶……

まさしく

「純艶なる情景俳句」の
真骨頂がここにある

小澤克己

今生に遊びつかれて菊脛

芒野を閉めて塩瀬の帯解けり

冬空へ背鰭を立つる妙義山

英字新聞開けばフリージアの束

場
所
取
り
の
筵
の
上
の
蛙
か
な

牧
場
の
外
に
牛
ゐ
る
霧
襖

朧
夜の誘はるるなら湖の上

青空の樹下にて新茶饗しけり

フロイトかユングか毛糸編み続け

禪寺の石のまはりの露のたう

観音の細身に春のしぐれかな

春愁の肌をすべらす絹衣

海を恋ふ風船の紐放しけり

長汀を来る朝涼の若き僧

さくら狩り羅漢の一人混じりをり

瓢箪を振れば師の声詩のこゑ

寒
林
に
石
打
の
羽
拾
ひ
け
り

高
楼
の
隠
し
階
段
花
月
夜

吾が忌にはしんしんと雪降れよ降れ

われ立つは宇宙の真中冬櫻

直
言
の
あ
と
寒
月
に
身
を
晒
す

渡
る
に
は
細
き
倒
木
花
菖
蒲

緑
蔭
に
水
湧
く
音
の
幽
か
な
り

眼
裏
に
湖
た
つ
ぷ
り
と
夏
惜
し
む

み
ん
み
ん
の
山
が
吐
き
出
す
滑
り
台

踏
ん
で
ゐ
る
銘
石
青
し
山
笑
ふ

初島に日が射してをり春しぐれ

鳥雲に郡上紬の名刺入

耕
や
漢
が
地
球
割
ら
む
と
す

抽
斗
の
外
貨
見
て
ゐ
る
松
の
内

七日粥やうやく雨となりにけり

冴返る石にはせをの筆の跡

南極の石に触れをり花馬酔木

初春の沖よりとどく濤の詩

運
開
く
か
な
初
春
の
白
馬
見
て

松
過
ぎ
の
北
ウ
イ
ン
グ
の
乙
女
か
な

海は火の高さ讃ふるどんどかな

トルストイみたいなお鬚初句会

前
を
行
く
二
人
の
力
士
初
観
音

立
春
の
光
と
な
り
し
湖
の
真
帆

白
酒
や
一
の
蔵
に
は
漆
椀

春
暁
の
櫂
の
息
吹
も
ら
ひ
け
り

蘿やモヘンジョ・ダロの首飾り

白皙の指より生るる春の曲

雛壇にある唐棧の笛袋

春昼の博物館の酒器のこゑ

これからのことはきつちり除夜の雪

われ立つは宇宙の真中冬櫻

寒
濤
や
胸
痛
き
ま
ま
で
光
吸
ふ

直
言
の
あ
と
寒
月
に
身
を
晒
す

句集 今生 こんじやう

平成十七年十月五日 発行

著者 宮澤さくら

発行者 大山基利

発行所 株式会社 文學の森

PDF 俳誌のsalon